

相談室だより

二〇〇五年二月 MSW

「いぼれた言葉」集めました

皆さん早いもので、もう二月、そうですね、総括の時期です。皆さんは済まれましたか？
どんな総括になったのでしょうか？僕はあと一息といった感じです。一年間振り返って、
総括を進めようとすると思つようにはかどらず、ふと、今年もいろいろな言葉に出会
ったなあと思ひ出しました。ということで、今月の相談室だよりは嗜好を変えて、その
言葉たちの紹介をします。

「お父さんの髪を剃るのが私の仕事よ」：八〇代女性。脳梗塞で寝たきりになられたご主人
の髪を電気シェーバーで剃りながらの一言。笑顔で、こつ付け加えられました。「お父さ
んは話すことは出来ないけど、髪剃るときは笑っているように見えるのよ」。彼女は夫の
髪が伸びることに「生命力」を感じ、またそのことで介護に喜びの一面を見出している
ようでした。

「この夕陽はきれいだなあ」：五〇代男性。そう、この夕陽は新館3階限定の特別スポッ
ト！有明海に沈む夕陽を見ながら、物思いにふけていらつしゃいました。一緒に眺め
ましたが、本当にキレイでした。皆さんも是非、ご覧ください。これも、米の山病院の
「売り」のひとつでしょう。

「ほう、今度はつがいのメジロが来るよ」：八〇代男性。もう自分の力だけでは体を動かすこ
とが出来なくなつてしまつた彼が病室の窓の先を見ての一言。その時、僕には何がなん
だかわかりませんでした。すると外の樹木にメジロが仲良く二羽飛んできました。彼は
体が不自由な分、感受性が豊かでした。その感受性で「生」を感じていらつしゃるよう
でした。

「また介護できる！」：八〇代女性。ICUから彼女の夫が急性期を脱し、一般病棟に転棟
になられるときの一言。僕の知る限り、彼女は二〇年近く夫を介護しているはず…僕の
知る限り介護は辛いものであるはず…笑顔で「また介護できる！」と言つた彼女に驚き、
介護は辛いだけのものではないんだと思ひ直された一言でした。そして、その介護のバ
ックアップを我々親仁会もしているんだと少し誇らしげになりました。

日々、仕事をしていると色々な人の色々な感情や言葉に出会います。確かに私たちの
働く病院は、他の会社等と比べ、喜びや嬉しさが少ないかもしれませんが、でも、その喜
びや嬉しさを待ち望んでいるのは患者さんやご家族、そして私たちではないでしょうか。
周りにある「ちよつとした幸せ」を拾い上げて、患者さんと一緒に喜びたいものです。

地域医療連携室NEWS

2月17日、市内の介護施設に呼びかけて、「胃ろうについての学習会」を開
催！なんと80名の参加者で大盛況！

今回初めての試みで、地域の施設を招いての「学習会」を開催しまし
た。当初の目的は、米の山病院が持っている物をいかに地域に提供でき
るかということでした。しかし、いざ学習会を終えると、その当初の目
的に加え、私たち米の山病院の「底力」を感じさせてくれる取り組みに
なりました。これだけ大勢の方を招いて、私たちの医療活動を伝えるこ
とができるのは、やはりそれだけのチカラがある証拠だと思ひます。と
にもかくにも、講師を引き受けていただいた後藤先生、中村先生をはじめ
め、スタッフのみなさん、ありがとございました。連携室ではこの取
り組みを継続していく予定です。次回は、皆さんの職場にお願いしに行
くかもしれません、その時はどうぞよろしくお願ひします。

これを契機に、継続的にこの学習会
を行っていく予定です。皆さんの
協力をお願いします。

